

NEXT ENGINEER

VOL. 04

2002年 10月号

におもしろく感じられるならやってもいいとは思いますが、単にSEとしてのスキルアップの一環としてであれば、これ自体を勉強するのは荷が重過ぎるような気がするのが率直なところだ。

ただ、次の2冊はお勧めしておきたい。

誰のためのデザイン？

認知科学者の
デザイン言論

D.A.ノーマン著
新曜社刊
3300円



①

文章・図表・イラスト 一目でわかる 表現の心理技法

海保博之著
共立出版刊
2100円



②

どちらも認知科学系の研究者が書いた本だが、①は工業デザインにおけるUIの観点から、②はプレゼンテーションの観点からその知見をまとめたものである。いずれも八方探し回ってでも入手する価値のある名著である。

もしかしたら、認知心理学系の勉強を始めたのはオブジェクト指向がきっかけであったような気もする。そのころの私は、寮で同室だった先輩の影響でSmalltalkで遊んでいたこともあり、その純粋オブジェクト指向パラダイムをより深く理解しようとして認知心理学に手を出したような記憶がないでもない（最近のオブジェクト指向「言語」の隆盛の中ではかえって忘れ去られているようだが、オブジェクト指向と認知心理学とは実は切っても切れない関係があるのだ）。

認知心理学とオブジェクト指向

次に、認知心理学に関する“趣味的つまみぐい”が挙げられる。

きっかけは定かではないが、同じころから私は認知心理学系の勉強をするようになった。と言っても別に専攻していたというわけではなく、単におもしろそうだから関連の本を読みあさっていただけで、ほとんどのことは今では忘れてしまっている。だが、人がモノを認知し、理解するという、脳と心の働きの奥深い世界の一端をかいま見たのは事実であり、それが現在に至って役に立っているのは間違いない。

もっとも、だからと言って今、SEを目指す人に対して、認知科学の勉強をすることを勧めするわけではない。個人的